



2022年度 大川賞受賞者

受賞理由

非視覚的ユーザインタフェースの研究開発と情報アクセシビリティの実現に向けての多大な貢献

浅川 智恵子 博士

現 職 IBMフェロー

日本科学未来館 館長

カーネギーメロン大学 IBM特別功労教授

学 位 工学博士(2004年、東京大学)

生年月日 1958年11月21日

略 歴 1982年 追手門学院大学 英米語学文学科 卒業
1985年 日本IBM 東京基礎研究所 入社
2004年 東京大学 大学院 工学系研究科
先端学際工学専攻 博士課程修了 博士(工学)
2009年 IBMフェロー就任
2014年 米国カーネギーメロン大学 IBM特別功労教授
就任、兼任
2018年 米国IBM トーマス・J・ワトソン研究所 転籍
2020年 東京大学 先端科学技術研究センター
フェロー就任
2021年 日本科学未来館 館長就任、兼任

その他 NAEメンバー、情報処理学会フェロー等歴任

主 な 受 賞 歴 1999年 厚生大臣表彰

2003年 Women in Technology International
女性技術者の殿堂
2009年 情報処理学会 喜安記念業績賞
2010年 女性エンジニア協会 SWEアチーブメント賞
2011年 Anita Borg Institute「Women of Vision賞」
2011年 文部科学大臣表彰 科学技術賞(開発部門)
2012年 日本点字図書館 本間一夫文化賞
2013年 紫綬褒章
2015年 津田梅子賞
2016年 立石賞 特別賞
2019年 全米発明家殿堂入り
2020年 米国盲人協会 ヘレン・ケラー アチーブメント賞
2022年 日本ITU協会賞 特別賞

主な業績

浅川智恵子博士は、プールでの事故が原因で14歳の時に失明したが、その後、研究者として数々の視覚障害者支援のプロジェクトや情報アクセシビリティ(障害者や高齢者等に限らず誰でも情報アクセスやコミュニケーションをできるようにすること)実現のための研究をリードし、その啓発

促進につとめてきた。

1982年に追手門学院大学を卒業後、日本ライトハウスで視覚障害者向けの情報処理科を修了。1985年に日本IBMに入社。日本語デジタル点字システム等を開発し、視覚障害者のための支援技術の研究開発に従事してきた。

1997年、世界初の視覚障害者向けの実用的な音声ブラウザである「IBMホームページ・リーダー」を開発。これはその後世界11ヶ国語で製品化され、世界の視覚障害者の情報アクセスの手段を格段に向上するきっかけとなった。また、2004年には視覚障害者や高齢者にもアクセスしやすく使いやすいウェブページを作れるように、視覚障害シミュレーションやユーザビリティの自動チェックにより、ページ制作者を支援するツールaDesignerを開発し、無償公開した。

博士は、2009年IBMフェローに任じられ、2014年にはカーネギーメロン大学(CMU)の客員教授として米国に赴任した。AIの技術を視覚障害者支援に応用する研究を牽引し、実社会における視覚障害者の生活の質の向上を支援する技術の研究開発を推し進めてきた。屋内外を区別なく案内する高精度音声ナビゲーション・システムNavCog(日本では、「インクルーシブ・ナビ」として知られる)を開発し、視覚障害者のナビゲーション向上と実用化に取り組んできた。

近年ではAIを活用した移動やコミュニケーション支援のための統合ソリューションとして「AIスーツケース」の開発を推進し、社会実装に向けた実証実験を行い、障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら共に生きる「共生社会」の実現を目指している。

さらに2021年から日本科学未来館館長に就任。未来を創造する科学技術と社会をつなぐ活動に積極的に取り組んでいる。

これらの業績により博士は2013年の紫綬褒章をはじめ、国内外から数多くの賞を受賞し、2019年には全米発明家殿堂入りをしている。

このように、浅川智恵子博士は、非視覚的ユーザインタフェースの研究開発と情報アクセシビリティの実現に向けて多大な貢献をされてきた。ここに大川賞を贈呈し、その功績を称えるものである。